

## 今号の TOPICS～（副代表のご挨拶）

\*\*\*\*\*目次\*\*\*\*\*

- P1 今号の TOPICS 今本 英佐子  
 P2 仲間たちの近況報告（1）  
     1 班 上田 和明  
     2 班 奥 久美子  
 P3 仲間たちの近況報告（2）  
     3 班 藤原 敦子  
     4 班 大野 真理生  
 P4 専任幹事ご挨拶 五家 正敏  
     リレー随筆 田中 朱実  
 P5 私の玉手箱 堀内 信彦  
 P6 樹形ウォッチング 遊上 真一  
 P7 絵画コーナー 中山 勝一  
 P8 俳句・ 池田 清  
     川柳コーナー 竹山 秀規  
 P9 俳句・ 山上 恵子  
     川柳コーナー

## ◇自然と文化だより◇

ウクライナ戦争やコロナ、物価高など暗い話題ばかりで、気が滅入ります。

ここで明るい話題を。MLB 大谷翔平は今シーズンも昨年に続き活躍して、規定投球回数・規定打席回数をともにクリアする勢いで、成せばMLB史上初です。あのペブルースでも成しえていない記録です。MVP間違いなしと思いきや、ヤンキースのジャッジが三冠王が見えてきて、激しいMVP論争がくり広げられています。

しかしどちらになろうとも紳士同士の争いであり、人殺しには至りません。スポーツで決着をつけてはいかがでしょうか！ブーチン様。

Y.T



## コロナの中の日常で考える

副代表 今本 英佐子

7月12日のニュースではコロナが第7波に入ったのではといわれ、それ以後コロナは衰えることなく大変な状況になっている。しばらくはコロナから逃れられそうもない。

旅行担当になって旅行に行けたのは1度だけ。今年は何とかな行けるかと考えていたが、雲行きが怪しくなっている。

さて、コロナの話題に関して、新聞の記事でプレディミかこさんが「今こそ『エンパシー』が必要ではないか。」と述べていた。彼女は「僕はイエローでホワイトで、ちょっとブルー」という本（ぜひ読んでみてほしい）で有名になったイギリス在住の日本人である。彼女は「他者の靴をはく アナーキック・エンパシー」という著書の中でエンパシーについて述べている。エンパシーとはあまり聞いたことがないが、よく似ているシンパシー（同情、思いやり）と違って「他者の感情や経験などを理解する能力と共感する心」と訳されている。コロナ蔓延の世界では、この言葉の意味がますます大切になるのではないかと。私の感想だが、日本人はシンパシーに関しては敏感であるがエンパシーに関してはかなり関心が薄いというか、あまり分かっていないように思う。

コロナが生活を支配している世界で、人間同士の付き合いが希薄になり、他人に対してだんだん寛容でなくなっているのではないかと。「他人の靴を履いてみる」ということは、自分と違ってものを理解し、共感したり、受け入れたりすることである。コロナに罹った人を気の毒だと思うだけでなく、その人たちの気持ちを受け止めて、共に過ごすことだと思う。電車の中で咳をすることに過敏になるのも、咳をする人をちょっと嫌だと思うのも、コロナに自分は罹らない、罹らなかって良かったと思うのも、自分中心にしか考えていないからではないだろうか。マスクをするのは、他人のためというよりも、自分が人に染さないための役割が大きいはずである。

同じく新聞記事に、空いた電車の中で隣に座った人に「空いているからゆったり座ったら（暗に席を移動するよう）」と促した人がいた。それに関して、「他人に言う前に自分が席が変わるのも一つの方法ではないか。」という意見が書かれていた。他人に要求する前に自分に何ができるか、どうするのが良い方法かと考える余裕が必要ではないだろうか。

こんな時だからこそ、他人の立場に立って考え、行動する生活を目指したいと考えている。

## 夜 明 け

### 1 班 上 田 和 明

8月6日午前4時30分頃、アルバイトの新聞配達を終え、いつものように、いつもの場所でスマートフォンを操作。暫くして、背後でバイクが停まり人の気配。振り向くと警官。「何を盗ってるんだ?」「夜明けの写真を撮ってます」と、無言の会話。邪魔者去る。後は東の空との対話。日の出前の貴重な、私にとって一日の中でも大切な時間帯である。写真も然り乍ら、我が存在原点を確かめ、想い巡らす一時でもある。

千年程前、清少納言は『枕草子』冒頭で、春の曙をこの世の美しいものとして挙げている。太陽が未だ地平線より下にあり、空が次第に薄明るくなっていく、所謂「薄明」の夜明けの空は荘厳で神秘的でさえある。しかも一瞬一刻変化し、季節、雲、気象条件等によって千変万化、一つとして同じ姿を見せない。この魅力に嵌って、夜明けの写真を撮り続けています。その中から2枚紹介。1つは7月24日4:24 残月の夜明け。次は8月11日4:59 色彩豊かで紫雲見られる。



薄明にも天文薄明、航海薄明、市民薄明と三段階あることや、薄明光線、反薄明光線、太陽柱、地球影とビーナスベルト、地球照、マジックアワー等、夜明けの写真を通して、新鮮な発見がありました。

9月よりアルバイトを辞め、介護を主軸とした生活に入る予定です。夜明けの時間帯はどのような暮らし方になるのでしょうかね〜?

## 堤防散歩

### 2 班 奥 久 美 子

仕事を辞めてから、運動不足にならないように自宅近くの淀川の堤防を歩くようにしています。珍しい草花はありませんが、四季折々色々な花が咲くので立ち止まって見たり、写真を撮ったりして楽しんでいます。



7月はヒルガオとノランニンジンが満開で、ノランニンジン法面に咲いているところもあります。レースのような白い花がとても綺麗です。花の上には今年もアカスジカメムシがいっぱい。黒地に赤い縦筋が美しいカメムシで、セ

リ科植物の汁を吸うそうです。図鑑で調べると赤と黒のはっきりした模様は警戒色で、鳥からの捕食を免れやすいようです。このような鮮やかな警戒色を持つカメムシは悪臭を出さないと書かれていたので捕まえてみましたが、手足を動かすだけで確かに嫌な臭いはしませんでした。



いつも歩いている堤防ですが、今年は初めてカラスノエンドウとアカツメクサの白花を見つけました。今まで咲いていても気がつかなかっただけかも知れません。

これからも、色々な発見を楽しみたいと思っています。



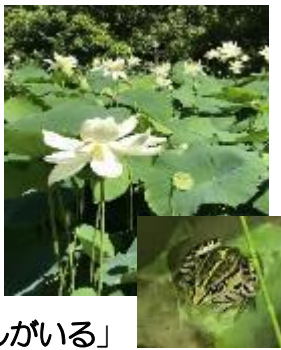


## 水生生物のフィールドワーク

3班 藤原 敦子

今年は熱中症警戒アラートの発令で熱中症に注意し、涼感のある水生生物の観察会に出かける。

初めに蓮池で、じっと水面の様子を覗いて見る、少しでも動きがあると網をゆっくりと入れてゆすってみる。網の中に入った泥土を覗く、これを何回か繰り返していくと、周りの子ども達の「大きなトノサマガエルがいる」



と言う声が聞こえてきた。ハスの茎、葉っぱの陰に隠れてるのを見つけたらいい、そっと覗いてみると、こちらを鋭い目で睨んでいるトノサマガエルがいた。特徴である背中に緑の筋が入っていた。



水田では、オタマジャクシ、タニシが簡単に見つけれられた。ザリガニはタニシが餌なので、近くには小さいザリガニもたくさん見つけれられた。

ヒメタ



ニシとカワニナは水生ホタルの幼虫の餌になるので、夜にはゲンジボタルやヘイケボタルが水田の周りをとんでいる。

カワニナはカワニナ科で細長い巻貝の一種、流れのある水路では貝のカルシウムが溶けて先が丸くなる。繁殖方法は卵ではなく、稚貝を300~400匹産み増やしていく。ヒメタニシの稚貝は2mm位と小さい。



水路ではギンヤンマのヤゴを見つけた。ヤゴの顎は普段は下口びるの部分に、折りたたまれて口の下にしまっているが、餌が近寄ると素早く顎を、前に伸ばして先っぽにつけているキバ

で餌を捕まえて食べる。脱皮して大きくなったオタマジャクシやメダカ等も食べる、肉食性である為に、エサ不足になると共喰いを始める。

今回の観察では、水生生物の生態系の多様性に好奇心を持った、今後も色々な分野のフィールドワークを楽しみたいと思います。

## ソフトな山行へ志向

4班 大野 眞理生

6月上旬、ネイチャー学志山歩会の九重連山縦走に参加した。大分県杵ノ戸峠を14名で久住山(1767m)を目指し9時出発。初日から登山日和の好天であった。道中、ユキノシタ、ミヤマガマズミ、カラスビシャク、トキワツユクサ、ヒメウツギの花たちが急登に喘ぐ息を癒してくれた。扇ヶ鼻分岐までのハシゴ場を過ぎると右側の山腹にミヤマキリシマが群生していた。久住山直下でザックをデポし山頂に辿り着いたのは12時。20畳くらいの山頂は人でごった返っていた。昼食と記念写真を済ませ九州最高峰の中岳(1791m)に登頂し、今夜の宿“法華院温泉山荘”を目指した。

15時40分到着。翌朝5時、平治岳(ひいじだけ1643m)への往復に出発した。お目当てはミヤマキリシマの群生である。山荘から5分程度のラムサール条約登録地の湿地帯“坊がつる”を通り、可憐なサワオグルマの群生やタンナサワフタギ、見事なノアザミ、ハルリンドウ、そしてマイヅルソウ等が早朝登山の眠気と気だるさを取り払ってくれた。ぬかるみに悪戦苦闘しながらシロバナドウダン、ベニバナドウダン、アサガラ、ベニバナニシキウツギの花を見て行った。周囲500mはあろう火口跡にできた御池の縁を進み、平治岳南峰に登ると眼下に坊がつるが一望できた。ここまで来てよかったと



思わず声に出るような絶景である。更に進み鞍部から平治岳本峰を見上げると一面のミヤマキリシマであった。急登なのにその中を勢いがつく。7時山頂着。他の登山者がいなかったのも全員が歓声をあげた。法華院温泉山荘まで戻り、最終下山準備の待ち時間に女性らが「坊がつる讃歌」を歌いだし合唱の輪になった。早朝登山の疲れは一気に癒され、青春を彷彿させる瞬間であった。再び坊がつるを縦断し下山路を急いだ。途中の森林の中でオオヤマレンゲが急ぐ私たちを見送ってくれた。

縦走と登頂で山と対峙するヘビーな山登りをしてきた私だが、今の山行のような緩やかに山を楽しむソフトな山登りを志向する私になりそうである。

## 公園のあの木が伐られた！

社会貢献委員会 五家 正敏

今春、スーパー野菜売りのタマネギの価格には驚いた。普段の3～4倍の値段である。主産地北海道の昨夏の日照り、2番目産地である佐賀県では今4月雨にたたられた、更にはコロナ禍で中国産の輸入が滞ったこと等が原因であるらしい。わが市民農園での今春タマネギ収穫量はますますであり、好天に恵まれ陰干しがうまくいったため腐らずに長持ちしている。野菜は日々刻々と変化する天候に左右されることが多い。近年の天候不順には目を見張るものがある。



数年前の台風等により公園でも多くの倒木が発生した。回数は減ったが引き続き「里山を守る会」に参加し、間伐体験をすることがある。間伐は美しい自然・景観を守るとともに土砂崩れ等防災面からも役立つ。昨今公園の樹木が伐られるのを目にすることが多い。慣れ親しんできた万博記念公園、長居植物園等の樹木が伐られるのをみると居た堪れない。安全面から倒木処理をすることもあろうが、樹木を伐採して花壇をつくった方が入園者が喜び、入園者数が増加するとも言えるのであろうか？こうした傾向は主たる公園管理者が変更になったケースに多くみられるようである。

社会貢献活動はこうした公園で実施することが多い。樹木を伐り作った花壇から自然の営みや植物の生き様を感じとることができるのであろうか？高齢化、価値観の多様化等により参加者の幅が広がっている。天候不順による暑さ・熱中症対策、感染症対策等々、社会貢献活動をめぐる環境には対処しなければいけない課題が多い。これからは、多くの関係者の皆様のご理解・ご協力が不可欠である。

「社会に向けて発信し、貢献活動に努める」ことが自然と文化科の理念の中に明記されている。「社会貢献活動、箕面公開観察会、講座部補助講師、万博NFのいずれかに、年1回以上参加する」と主たる方針に書かれていることを今一度思いだしていただきたい。（2022年度「自然と文化科」活動方針）

## 愛する雑草の庭

4班 田中 朱実

ひょんな縁からシニア自然大学に入学して5年目になる。それまで自然とはとんと縁のない生活をしてきた。義父母、夫も又同じである。40数年前、私たちの結婚を機に、義父がそれまで住んでいた家を2世帯が暮らせるように立て替えてくれた。なので小さな土地いっぱい小さな、それでも精いっぱい頑張った家が建った。庭と呼べるような庭はない。

しかし、隣家との間に細長い空き地が残った。ここが不思議なのである。細長い隙間とはいえ、朝と夕には日が差す。軒下部分には雨はかからないが、はみ出したところには雨も降る。土と光と水があるのに、雑草一本生えていない。そのことを不思議とも思わず、家人の誰もそこを通る事はなかった。

シニア大学に入り、にわか自然観察者の私は、「よし、ここを生き物がいっぱいいる場所にしてやろう」と思った。

まずは土だ。カチンコチンの土を何日も何日もかけて耕した。本当にこのシ〜ンとした所に生き物が来るだろうか？一握りの土の中に、数億個の土壌微生物がいるというが、ここは死んだ土なんじゃないだろうか？たい肥を入れればよいと教わった。ヘンクツ者の私は買ったものを入れるだけでは面白くないと思い、生ゴミたい肥を作りだした。はじめは本の通りに真面目にやっていたが、寒い季節や暑い季節は上手くいかない。だんだん有機物を米ぬかを振って埋めておけばそのうち分解するだろうと、ひどく横着なやり方に行きついた。

そんな、いい加減な事をしていたのだが、今はどうだ！カラスウリ、ヤマノイモ、スズメウリ、トキリマメ、イノコズチ、エノキグサ、クワグサ、ツユグサ、ハハコグサ。チチコグサならお任せあれ。ウラジロチチコグサ、チチコグサモドキ、キヌゲチチコグサ、タチチチコグサ（多分）、バッタ、カマキリもいる。去年はツグミが来た。



そろそろ、家人に呆れられ文句も出てくるだろう。少し考えなければいけないかもしれない。

でも、雑草は面白い！！



何か考えなくちゃ～

2 班 堀内 信彦

朝、缶ビールとスルメを買って梅田から高速バスに乗った。乗客は6人余裕ありすぎ。外はもう太陽がガラガラ、バスは冷房が効いて快適。大阪を離れると缶ビールに手が伸びる。ちょっと幸せな気分。滋賀の緑の田園風景の流れるのを夢うつつに、名古屋を過ぎ分岐を左山側の高速道に入る。暫く行くと山間のトンネルの入り口が見え静かに吸い込まれてゆく。長い～トンネル、周りがだんだん暗くなり闇が周りを包む。誰もいない、どこ



に行っただろう？

突然誰かの声がした。お前よ！お前たち人間は地球を自分達のものだと思っていないか？勘違いするなよ！人間は遠い惑星から追放され我々に管

理されている囚人なのだ。この地球の主は人間以外の生物だ。へ～。

人間には知恵を授け、他の生きものには人間を見張る役目をあたえた。知恵により共生できるか、破滅の道をたどるか、不遜と破壊の過ちを繰り返すのか、見張られていることを忘れるなよ。

地球が何千万年かけ封じ込めてきた石化物をたった 100 年で掘り出し破滅への道を歩き出す過ち



を犯した。だが、やっと「持続可能な世界」を目指すことに気が付いたようだがいまだに、地球上で人間は争いをやめない、力による支配は地球消滅へのシナリオと気付かないのか。愚かなことだ。

古代に発展した 4 大文明（黄河、インダス、メソポタミア、エジプト）は強烈的な階級支配の文明、自然からの一方的略奪の農耕と家畜を生活の基盤とし、森を破壊し草原を食いつぶし砂漠化させた。そして文明は滅んだ。

列島では縄文文化が開花し、1 万年以上栄え次に引き継いだ。これが持続可能な世界を考える一つのレガシーなのだと思わないか。

自然を完全に破壊することなく常に次に再生することを考えて生きた時代。

春には春の恵みを、夏には海や川の幸を、秋には実りを、冬には狩をと季節の恵みを頂いていた。

その生き方が次の時代につなげる余力を台地に残した。共生と循環の原点であると先人が教えてくれている。

そういえば今は年中トマトもキュウリも食べられる。ビールもなくなるのかな～。

「里山保全」は子どもたちに「自然を伝える」ことで少しは良いことしてるけど、生きている間に自分ができること「何か考えなくちゃ～」ネ。人は知恵を授かっているわけだから。



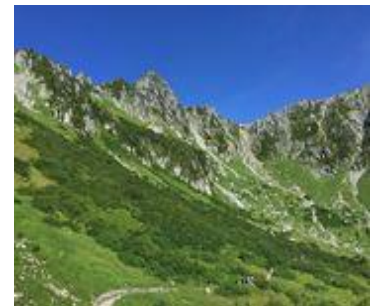
トンネルを抜けた。砂漠が広がり砂嵐で前が見えない。なんで～？何もしない世界がここだ！

停車案内のアナウンスで目が覚めた。

緑の山々が眩しい。

故郷は標高 7～800m の扇状地にある。バスを乗り換え「しらび平」（標高 1,662m）からの千畳敷（2,600m）までケーブルで 7 分半。

真っ青の空と遠く南アルプスの山並みを望む、緑の山裾には人々の営みがある。千畳敷カールは氷河が滑るとき削られて窪地みたいになった地形。お花畑が広がりチングルマ、シナノキンバイ、リン



ドウ、ミヤマキンポウゲなどたくさんの花が咲いている（花名はパンフにあった）。

近隣の中学校では 2 年生になると徒歩でこの木曽駒ヶ岳に登る。山小屋で 1 泊し山頂（2,956 m）を目指すのが夏休みの行事。山小屋は大部屋に頭と隣の人の足とを交互にすし詰状態で雑魚寝。

少し寒くなった。山を下り麓の露天風呂で旅の疲れをいやす。縄文には戻れないけどもう一度考えて見てみようかな。

湯気の中から山と千畳敷が見える。



（写真は一部観光資料借用）



溪流にそびえる巨樹 カツラ

3班 遊上 眞一



芦生。下谷の河床にそびえる高さ 38.5m



但馬高原植物園。樹齡千年 和池の大カツラ



但馬。別宮の大カツラ。山地から平野部に出るところに 株立ちし、存在感抜群



京都御苑。主幹は朽ちても、萌芽力が旺盛。周りのひこばえが 大木に育ちます



飛騨 天生湿原。 根上がり的大カツラ



飛騨 天生湿原。 カツラ門



武田尾 桜の園。 単幹で成長



しかしよく見ると、ひこばえが出て来てます



有馬富士公園観察会にて

2班 中山 勝一

<http://sizentobunka.jp/kaiga/index10.html> クリックすると拡大します



夏の野菜 習作3点



俳句

1 班 池田 清

・あどけなき文の七夕色紙かな

・丹波路の線路も曲がる暑さかな

・団員の七人もの名出水の碑

・水澄むや湖底の石に雲流る

・アルプスを遥か眼下に翳雲



川柳

3 班 竹山 秀規

3選(つばやき付き)

・ハゲイトウ、ツルリンドウで、サルスベリ

(ハエさんよ、気の毒に、止まった場所が悪かったな!)

・後光さす、頭に仏も、苦笑い

(どうか仏様に代わって、世の中を明るく照らして下さい!)

・バーコード、頂上覆えず、床屋泣く

(残念、髪の方が足りません、残り僅かなバーコードお大事に!)





俳句

4班 山上 恵子

- ・ 友逝きて梅雨の一日の重たさや
- ・ 夜は夜蝉朝は朝蝉鳴き交わす
- ・ 蛇口より人肌の水夏旺ん



川柳

- ・ この非道いつまで続くのウクライナ
- ・ 暗雲が地球全体立ち込めて
- ・ その刹那刹那を必死に生きていく



54号に投稿頂きました皆様、  
お陰様で無事発刊することが出  
来ました。ありがとうございました。  
引き続き皆様のご協力を  
期待しております。広報委員会